

南浜地域

II-1

地域が抱える課題

1 地域の課題

南浜地域では以下のような課題への対応が求められます。

種差海岸などの貴重な自然環境の保全・活用

本市を代表する観光・交流拠点の一つである種差海岸などの自然資源は、水とみどりが調和した独特の景観を楽しむことができる資源であり、貴重な資源として保全を図るとともに、自然環境との調和に配慮しながらさらなる活用を図ることが必要です。

高岩展望所からの自然海岸の眺望など、地域の資源として観光などに活用したまちづくりが必要です。

居住環境の向上や漁業、農業環境の維持・保全・活用

集落が地域内に分散しているため、集落ごとに居住環境の向上に取り組むことが必要です。

高齢化が進み、過疎化も懸念される中で、漁業・農業環境の維持・保全のため地域との協働により地域内の連携強化を図ることが必要です。

地域の文化を伝える貴重な資源である浜小屋などは、地域と協働した維持・運営やまちづくりへの活用を図ることが必要です。

中心市街地への交通利便性の維持

日常生活の中で必要となる商業施設や医療施設などの機能は、中心市街地や鮫駅周辺等の生活サービス拠点を利用する必要があるため、そうした拠点への移動手段として公共交通を維持することが必要です。

地域の観光・交流拠点である種差海岸への移動手段を確保するため、中心市街地と結び公共交通などの交通の利便性維持を図ることが必要です。

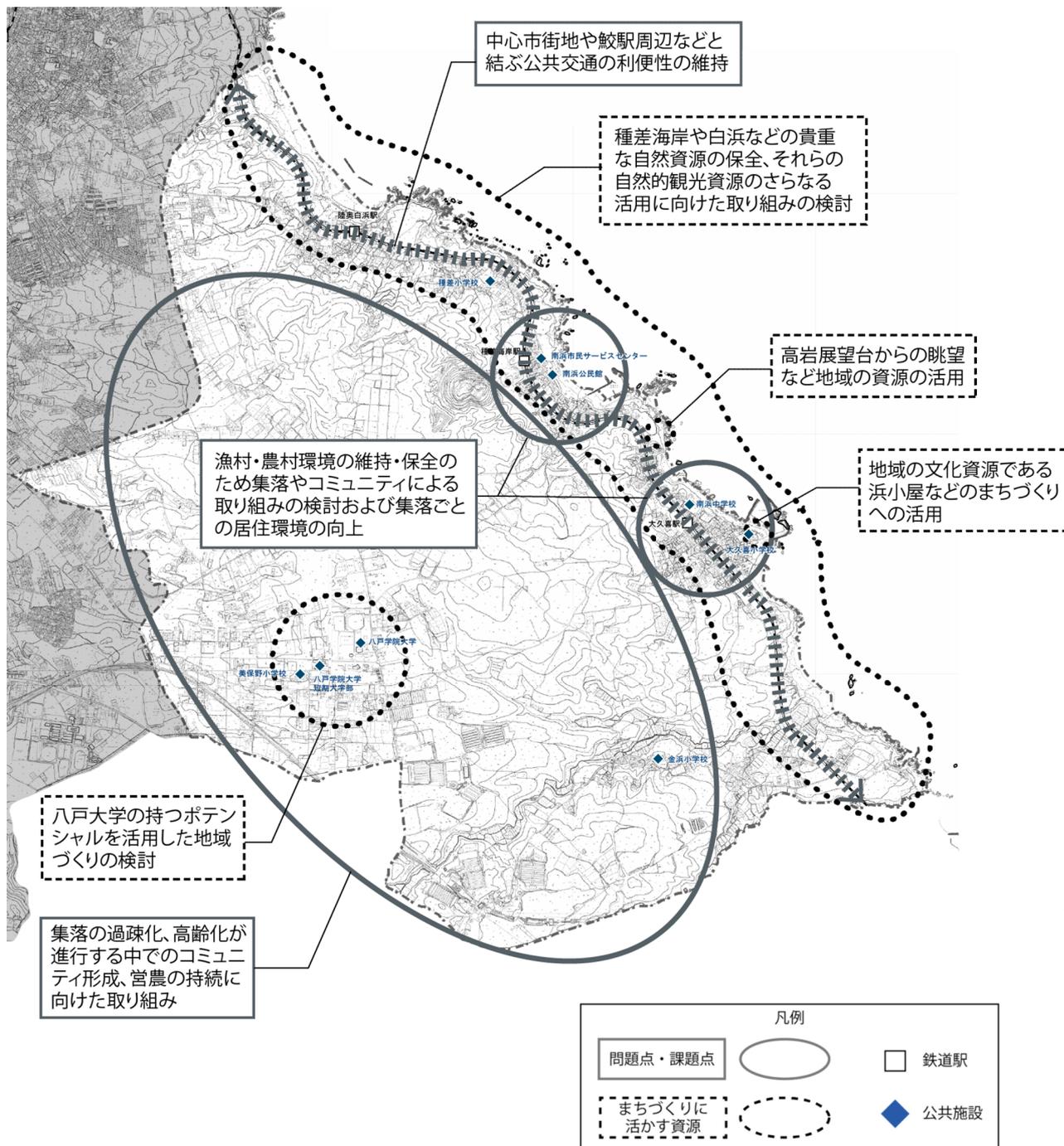
八戸学院大学等との連携

学術拠点である八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部と連携し、活力あるまちづくりをすすめることが必要です。

2 課題図

地域の問題点・課題点とまちづくりに活かす資源を下図のとおり示します。

〔南浜地域の課題図〕



11 南浜地域

11-2 まちづくりの目標

1 地域のめざすべき方向

中心市街地や鮫駅
周辺と連携し、快
適でくらしやすい
まちをめざす

集落を地域コミュニティの単位として居住環境の充実を図るとともに、鉄道や路線バスなどの交通の利便性維持に努め、中心市街地や鮫駅周辺との連携を図ることで暮らしやすいまちづくりをすすめます。

人と自然、地域の産
業が調和したまち
をめざす

人と自然が調和した海辺の環境を形成するため、自然海岸や丘陵地などの豊かな自然環境の保全を図るとともに、地域内の連携強化などにより漁業・農業の環境や文化を維持・保全し、自然と産業が調和したまちづくりをすすめます。

種差海岸を活か
し、ホスピタリ
ティのあるまちを
めざす

地域の資源である種差海岸では、訪れた人々がくつろぎ、交流できる空間を維持・活用するとともに、もてなしの心「ホスピタリティ」のあるまちづくりをすすめます。

自然海岸の眺望や地域独特の文化資源などの維持・保全を図るとともに、観光などへの活用をすすめます。

三陸復興国立公園の一部として近隣の都市と連携し、多くの交流が促されるまちづくりをすすめます。

大学等と連携し、活
力あるまちをめざ
す

八戸学院大学等と地域が連携した取り組みを推進し、さらに活力のあるまちづくりをすすめます。

2 地域の将来像

種差海岸の海と緑をまもり、つながり・交流をはぐくむまち

南浜地域は、種差海岸や丘陵部の魅力ある水と緑が特徴です。

海岸や丘陵の自然をまもりながら、観光・漁業・農業などの産業と暮らし、そして人と人とのつながり・交流をはぐくむ、活力に満ちたまちづくりをすすめます。

11-3 まちづくりの方針

1 土地利用の方針

- 種差海岸周辺では、自然環境の保全に配慮しながら、訪れた人々をもてなし、触れ合う観光拠点としての種差海岸インフォメーションセンターなどの機能維持・充実を図るとともに、日常生活を支える生活サービス拠点の形成を図ります。
- 種差海岸駅周辺では、遊歩道や案内板などの適切な維持・管理を図り、地域に訪れる人が快適に周遊できる空間づくりをすすめます。
- 地域における生活利便性を高めるとともに自然環境の保全を図るため、生活排水の個別処理をすすめます。
- 美保野地区では、八戸学院大学などのにぎわいを活かしたまちづくりをすすめます。

2 交通の方針

- 種差海岸沿いに走る主要地方道八戸階上線は、自然環境の保全に配慮し、観光バスがすれ違えない場所の部分的な改良をすすめます。
- 通学路や観光客の散策ルートでは、安心して歩ける道路環境づくりをすすめます。
- 鉄道や路線バスなどの公共交通ネットワークの維持に努め、中心市街地や鮫駅付近への地域住民のアクセスや観光で訪れる人々の交通の利便性維持を図ります。
- 鉄道などを活用したさまざまな取り組みを通じて利用促進を図るとともに、地域の魅力発信をすすめます。



11 南浜地域

3 水とみどりの方針

- 海岸や丘陵部などの自然環境の保全につとめます。特に種差海岸では、環境に配慮しながら、訪れた人々がくつろげる空間としてさらなる活用をすすめます。
- 地域の魅力ある資源として丘陵部の緑の保全を図ります。
- 白浜海水浴場は市民が憩い、交流する生活うるおい拠点としての機能を維持し、さらなる活用を図ります。

4 景観の方針

- 市内を代表する風景の一つである種差海岸や大須賀海岸などの風光明媚な景観の保全を図ります。
- 海と緑が調和した景観の特性を活かしつつ、八戸らしい海の風景を感じられる景観づくりを図ります。
- 高岩展望所は鮫角灯台から岩手県境までの海岸線を一望できる貴重な眺望点であり、景観を楽しめる空間として機能の維持・向上を図ります。
- 浜小屋などの文化資源は、地域固有の漁業文化を感じられる場所として、地域との協働により維持・管理をすすめるとともに、観光などへの活用を図ります。

5 防災の方針

- 津波などによる災害への対応が必要な海岸部の集落では、避難地・避難経路の整備を推進するとともに、地域の自主防災会などと連携を図りながら津波災害に対して安全な地域の実現を図ります。

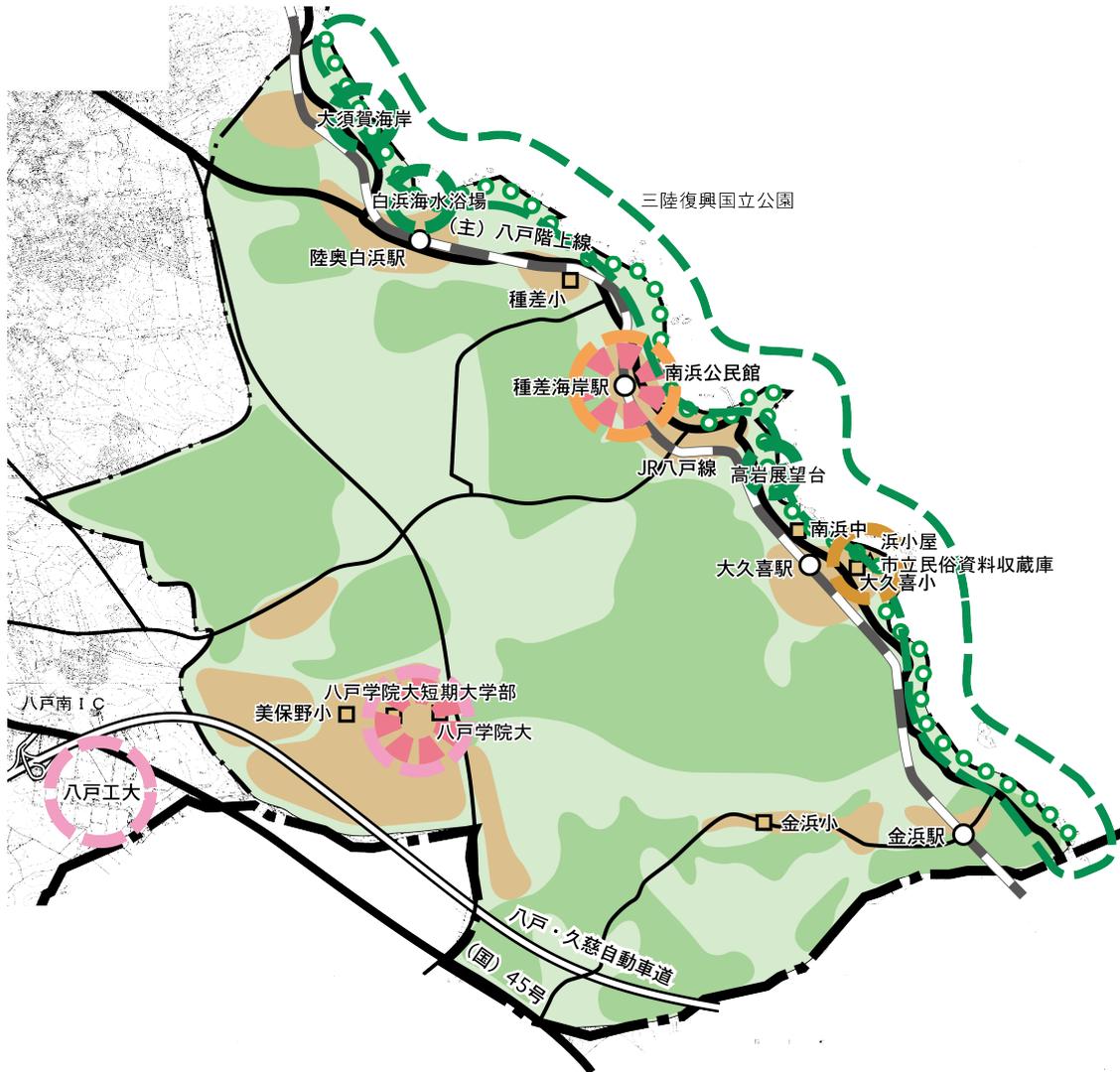
6 協働のネットワークの方針

- 三陸復興国立公園の一部を形成する海岸部では、近隣の都市との連携によりさらなる交流の活性化を図ります。
- トレッキングや乗馬体験等による種差海岸の活用など、地域と協働したまちづくりをすすめます

11-4 地域の構想図

南浜地域のまちづくりの目標と方針を踏まえ、地域の構想図を下図のとおり示します。

〔南浜地域の構想図〕



凡 例			
土地利用	交通などのネットワーク	都市施設	広域拠点
住宅系ゾーン	鉄道	学校	観光・交流拠点
集落ゾーン	高規格道路	公園	産学連携・学術拠点
商業系ゾーン	幹線道路	其他公共公益施設	歴史と文化の拠点
産業系ゾーン	補助幹線道路	生活拠点	水とみどりの拠点
農地ゾーン	水とみどりのネットワーク	生活サービス拠点	南浜地域
緑地ゾーン		生活うるおい拠点	



0 500 1,000 2,000m